

Gelsemium sempervirens イエロージャスミン [筋肉の麻痺, 節々の痛み, あがり症]

Gelsemium sempervirens (L.) Ait

Bignonia sempervirens L.

BACK GROUND

Gelsemium は、イエロージャスミン、カロライナジャスミンと呼ばれる北米原産の綺麗な黄色い花を咲かせる、マチン科ゲルセミウム属の常緑蔓性低木です。川のほとりのような湿地を好み、バージニア州からフロリダ、メキシコにいたる海岸沿いによく見られます。花に強い芳香があるので、ジャスミンという名前がついていますが、本当のジャスミンは別の科（モクセイ科）の植物です。Gelsemium はマチン科の植物で、この科のレメディには、ほかにも Curare, Ignatia, Nux vomica, Spigelia などがあります。



(A)

Gelsemium は、イタリア語の gelsomino ジャスミンに由来します。種小名の sempervirens は、常緑という意味があります。

この植物は、非常に苦く、毒があります。この苦い味は主に、植物の根や皮に存在するアルカロイドのためです。アルカロイドには、毒性の強い Gelsemine や Gelsedine, そして Gelsemine よりも毒性が強く、ストリキニーネ様の作用をもつ Sempervirine, 運動神経神経毒の Gelsemicine などが含まれます。

この植物を多量に摂取すると筋肉は麻痺し、延髄の呼吸中枢に作用して、呼吸停止にいたります。このうち Gelsemicine は、この植物の主要な有毒成分の1つで、呼吸器系や中枢神経系に作用します。

ほかには、タンニン、スコボレチンやブラソサイド、エモジン、ファビアチン、イブラノール、Gelsemide, Gelsemidine, Gelseminine, Gelsemiol, Gelsevirine, n-pentatriacontane, 9-Hydroxysemperoside, 12 β -Hydrooxypregna-4, 16-dione-3, 20-dione など含ま

れています。

スコボレチンは、Atropa belladonna, Propolis, ノニなどにも含まれています。スコボレチンは、抗菌作用、鎮痛作用、鎮痙作用、抗喘息作用、抗浮腫作用、降圧作用、抗癌作用、中枢神経刺激作用、血糖降下作用、筋弛緩作用、子宮に対する作用などが知られています。

医学の分野では、1840年代にミシシッピ州のある農夫が誤ってこの植物の根を食べたところ、彼の高熱が治ってしまったことから始まりました。この偶然の発見から、この植物は高熱や神経痛、喘息、感染症、高血圧、頭痛、難産などの薬として使われていました。

MATERIAL

黄色い根

FIRST PROVING

Hale (1862)

MIND

Gelsemium タイプは、精神的に弱い面があり、予期不安で下痢や頻尿などになりがちです。自己コントロールを失ったり、失敗することを怖れています。

静かにしていることを好みます。比較的臆病で、死や人ごみ、広い場所などを嫌い、高い所から落ちることを心配します。喉は渇きません。

AFFINITY

Gelsemium は、主に脳脊髄神経系、運動神経系、筋肉、瞼、粘膜などに親和性をもっています。またインフルエンザのレメディとしてもよく知られています（注）。症状は、筋肉や節々が痛み、悪寒がしてふるえがきます。疲労感があり無気力になります。喉は乾かないのに、汗をかく発熱をします。体、とくに瞼や脚が重く感じられます。発汗や排尿で楽になります。これらがゆっくりと現われてきます。

CLINICAL APPLICATIONS

■神経系

- ・脳神経系の症状、筋麻痺による症状
- ・ウイルス性の運動神経麻痺
- ・急性灰白髄炎

・頭痛、片頭痛：頭痛は頭部の充血に伴って起こり、主に後頭部から始まり、首や肩の筋肉に痛みが広がります。その後、前頭部に広がる例もあります。眼球に打撲様の痛みを感じることもあります。視覚異常を伴うことがあります。

・多発性硬化症

・めまい：倒れそうになったり、落ちそうになる感覚になります。

・重症筋無力症

■眼の症状

・かすみ目

・眼球振とう

・二重視：頭痛の前後に起こりやすい傾向があります。また、眼球を支える筋肉群の緩みによって起こることがあります。

・眼瞼下垂症：目がとろんとして、瞼が下りてきます。目を開けているのがたいへんになります。

■風邪やインフルエンザ：衰弱感や疲労感が強く、ふるえが起こります。体の節々が痛くなり、筋肉痛や四肢の重くだるい状態になります。寒気が背筋を行ったり来たりします。頭部の充血により、顔は赤暗色になり、頭痛を伴うことがあります。発熱状態でも、喉はあまり渴きません。

■予期不安や先行する恐怖：Argentum nitricumは動揺し、Gelsemiumは麻痺します。各種恐怖症や試験などの前に、緊張やあがり症によって、足がふるえて力が入らなくなってしまいます。下痢や頻尿などの症状を呈す例もあります。

■不眠症：予期不安や興奮のために、眠れなくなるこ

とがあります。

■難産：Caulophyllumと併用することによって、陣痛を規則正しく収縮させる補助をします。妊娠中に他のレメディと併用して、分娩が有意に楽になったという報告があります。

■花粉症

■膝蓋骨の脱臼傾向：初期の状態

■その他

・慢性疲労症候群

MODALITY

▶ 新鮮な空気、多量の排尿や発汗後、前にかがむこと、目を閉じること、アルコールなど

◀ 感情的ストレス、怖れ、恐怖、悪い知らせ、ジメジメした天気、春、寒い湿った気候、暑さ、嵐の前、試験や演説などの前の予期不安、病気について考えること、午前10時頃、菌生など

注) インフルエンザのレメディには、Gelsemiumのほかにも、Arnica, Arsenicum album, Baptisia, Bryonia, Eupatorium perfoliatum, Nux vomica, Oscilloccinum, Rhus toxicodendronなどがあります。また予防には、Influenzinumなどがあります。

●マチン科のレメディ

OGANIACEAE マチン科 (Strychnos) : Gelsemium sempervirens, Ignatia amara, Nux vomica, Brucea antidysenterica, Brucinum nitricum, Curare woorari, Hoang nan, Spigelia anthelmia, Spigelia marilandica, Strychninum purum, Strychninum nitricum, Strychninum valerianicum, Upas tieute, Upas antiaris

Glonoinum ニトログリセリン $C_3H_5(NO_3)_3$ [ズキズキする脈動]

Nitro-glycerine $C_3H_5(NO_3)_3$

BACKGROUND

ニトログリセリンは、ダイナマイトの原料として有名です。1846年に Ascanio Sobrero によってはじめてつくられました。濃硫酸と濃硝酸、発煙硫酸を混合した溶液に、グリセリンを添加してつくられます。無色で油状の液体ですが、非常に不安定で衝撃や熱によって爆発を起こします。

Glonoinum の名はヘリングによって、Glycyl-Oxyd and Nitrogen Oxygen に因んで命名されました。

微量のニトログリセリンは、血管拡張作用があるので、狭心症、心筋梗塞、急性心不全による発作時の緩解目的で、治療薬として用いられます。

適量をしっかりと守らないとさまざまな副作用が起こります。

・循環器系：血圧低下、動悸、頻脈、中心静脈圧の上昇、脳貧血、顔面紅潮、心拍出量低下、期外収縮、チアノーゼなど

・精神神経系：頭痛、頭重感、めまい、耳鳴り、意識